

発行

福島県環境整備協同組合連合会

住所/いわき市内郷高坂町大町138番地2
TEL 0246-27-8818 FAX 0246-27-8813

発行者 岡 光義

編集責任者 瀬戸崇志

広報

福島環整連

スローガン

1. 下水道による残業務の安定的継続のため、合理化学業計画の推進、転換業務の獲得
2. 下水道に接続されない浄化槽（合併）の社会的地位の確立
3. 新浄化槽維持管理システムの推進
4. 浄化槽（合併）を併用した農業集落排水処理業務事業計画の実現
5. 市町村の責務である一般廃棄物処理計画の策定推進
6. 一般廃棄物収集運搬業の責任業務の遂行

「令和元年東日本台風」襲来

中通りや浜通りに甚大な被害をもたらす

政府は、令和元年10月18日の閣議で、令和元年東日本台風風の災害を「特定非常災害」に指定し、10月29日には「激甚災害」指定、政令も同日、閣議決定した。

当時の朝日新聞の集計では、令和元年東日本台風の大風により13都県で計88人が死亡し、ほかに7人が行方不明になっている。国土交通省のまとめによると、宮城や福島など7県の71河川140ヶ所で堤防が決壊した。土砂災害は宮城、岩手、神奈川など20都県の計60ヶ所で確認されている。総務省消防庁によると

10月20日まで、浸水のほか全半壊一部損壊を含め、住宅被害は全体で約5万6千棟にのぼっている。

令和2年1月21日現在
福島県危機管理部災害対策課の発表

【福島県】死者32人（郡山市6、いわき市8、白河市2、須賀川市2、相馬市2、二本松市2、南相馬市1、本宮市7、川内村1、飯館村1）
住宅被害 全壊1、4603棟、半壊12、343棟、一部損壊6、736棟、床下浸水1、159棟、床下浸水445棟

令和元年東日本台風の教訓と今後の災害対策

福島県環境整備連会長 岡 光義

昨年、10月12日に日本に上陸した令和元年東日本台風は福島県にも大きな爪痕を残しました。被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、今後も起こりうる大規模災害に備えるため、私なりに感じたことをまとめました。

全国環整連が道府県及び市町村と災害時の無償支援協定を締結したきっかけは、阪神淡路大震災にさかのぼります。特に被害が大きかった神戸市の、寸断された下水管の汚水処理、避難所の仮設トイレの処理のため、近隣の県からバキューム車で支援に駆け付けたところ断られ、結果として避難所の衛生状態が悪化しました。断られた理由

再開を果たしました。業界の業務に関わるものとしては、郡山市のし尿、浄化槽汚泥処理施設「富久山クリーンセンター」衛生処理センター」が水没し、長期にわたり使用不能となったことです。これは非常に深刻な問題で、これまでの災害対策の想定は、処理施設は稼働していることを前提にするものでした。今回のケースは、地元業者に被害はないが処理場が被災したため、し尿等の汚泥を搬入・処理する場所がない。何とか福島県の支援のもと、県内の市町村の協力を得て、最低限の量のし尿等を受け入れてくれる処理施設は確保できましたが、し尿等の移送業務と通常の収集業務の両方を行わなくてはならないため、郡山の所属員だけでは十分に対応ができません。通常の業務量の半分をこなすのが精一杯で、従業員にも大きな負担となる状況がありました。過去の災害では、被災を免れた下水処理場へのマンホール投入により緊急対応し、その間、復旧工事を急ぐのが一般的でしたが、今回の当初の情報としては下水道投入について、施設管理者である福島県と、郡山市で協議している様子はないとの事でした。このままでは郡山市の業者が疲弊する一方であるため、県環整連として事態改善に向け対応を開始しました。

まず、環境省及び国土交通省と連絡を取り、被災地域のし尿、浄化槽汚泥を流域下水道施設への投入の可否について問い合わせし、両省とも反対しないので地元での話し合いで柔軟に対応して構わないとの回答を得ました。これを受け、10月30日郡山市を訪問し、生活環境部長と面談して、国は下水道への投入を了承しているため、早急に福島県に下水道投入を要請して下さいと進言しました。

同時に、処理施設の被災状況と復旧に向けての説明を受け、長期化する模様と判断し、県環整連として支援準備に入る旨を申し出ました。

郡山市は、11月5日に副市長が県庁を訪れて下水道投入を要請し、県環整連でも県議会選挙の最中ではありましたが、無投票当選が確定した太田光秋県議、小林昭一県議へ、郡山市の汚水処理の現状を説明し協力を要請しました。その結果、郡山市の県中浄化センター横塚ポンプ場への投入が決定しました。が、早朝のみとする投入時間の制限や、汚泥希釈等の条件が厳しいこともあって、12月2日の投入開始まで約1ヶ月も要しました。

その間県環整連は、11月25日より他市町村の処理場へのし尿等の移送業務の支援を開始するとともに、福島県へ正式な要望活動として、12月6日、青木稔県議の先導にて、知事（鈴木副知事対応）、土木部長、生活環境部長、農林水産部長へ要望書を提出しました。内容は、郡山市支援のための下水道投入に対する投入量の増量や、投入時間等の条件緩和、及び今後の災害対応に関する連携強化と仕組みづくりであります。

その後、要望内容の下水道投入の条件緩和も、遅々として進ま

ない状況のなか、年明け1月に入り、被害処理施設の試運転が始まり、順次処理量が増やされたことから、県環整連の移送支援も、1月17日をもって終了し、この問題も収束に向かうことができました。

さて、このようなドタバタした状況を考えると、それぞれの勝手な思い込みが原因としてありました。国土交通省も環境省も災害等の緊急時はそれぞれ協力することを認めている。しかし、郡山市は一度下水道投入を断られた後は、それを選択肢から消してしまっただけで、福島県土木部は郡山市から要請がないので自らは動かなかった。我々業界は、まさか行政間の連携が取られていないとは思わず、初動の2週間を無為に過ごしてしまっただけで、電話やメールで情報交換するのはよいとしても、やはり被害状況が大まかに分かった1週間後ぐらいに、関係者が一堂に会した対策会議が必要であったのではと今更ながらに思う。

福島県の災害支援を思い出した。平成30年7月豪雨の災害支援の報告会の際、平成26年の土砂災害の経験があるためスムーズに連携が図れたかを聞いたら、4年間で当時の対応に当たった経験者がほとんど異動しており、そうでもなかったと返答があった。予想外であった。確かに東日本大震災を経験した福島県でもそうなり兼ねないと思っただけだ。

テレビや新聞では、郡山市やいわき市等のごみ問題や浄水場の水没による断水について連日報道されたが、下水処理、し尿、浄化槽汚泥の処理についてはあまり報道されない。ゴミは目に見えるし、断水は生活に不便だ。し尿や浄化槽汚泥の処理については、このように大変な事態でも、市民も地元の議員も何も言わない。何か？と訝りあえず普通にトイレが使えて風呂にも入れるし調理もできる。生活に不便がないから気付かなかっただけである。じわじわと地中や河川が汚染されていることに気付かないのである。

今後の課題であるが、郡山市の事例をもう一度再確認し、改善点を整理するとともに、県知事等へ提出した要望書にも示している通り、国、県、市町村の行政同士の連携強化と、業界を交えた情報交換や、定期的な災害に対する勉強会などを検討すべきである。

さらに、業界として速やかに対応すべき課題は、今回の台風で直接被害を受けたのは2社だけであるが、もう少しで水害に遭遇する可能性があった業者が多かった。今回のような台風の直撃が予想される時に備え、車の避難場所をあらかじめ確保しておく必要がある。また、バキューム車の予備を確保しておくことである。直接の車両被害や転送業務の発生を一定規模で想定し、予備車の必要台数を計画的に確保することである。

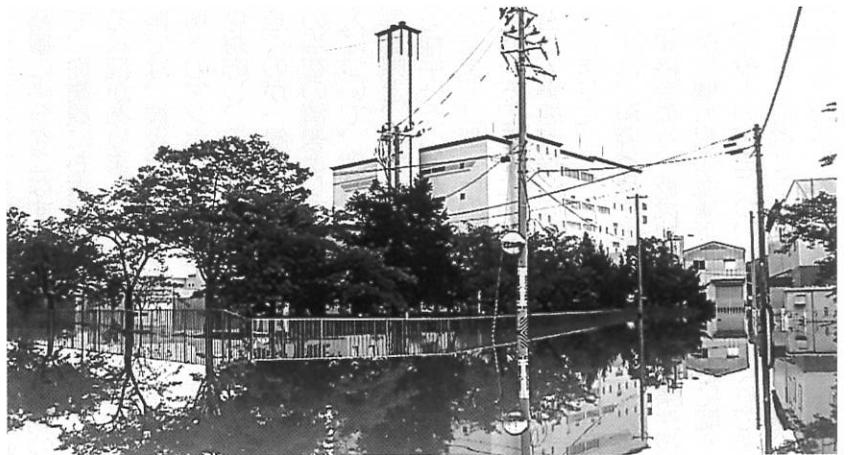
結び、福島県、郡山市には辛口の文面になったが、気象変動による災害は毎年起こる可能性があることを踏まえ、今後の教訓とすべくご理解をいただきたい。

郡山市の被災状況について

処理場の被災状況と受け入れ先施設への投入経過

月日	10月12日	10月17日	10月18日	10月2日	11月11日	12月2日	R2	1月28日	2月5日	2月10日		
令和元年東日本台風により被災	富久山クリーンセンター衛生処理センターの第1、第2処理場2.3mの浸水。ポンプ停止（張り水がない） 電気が通っていない。漏電の恐れがあり全体を通電させられない 復旧まで3〜6ヶ月かかる見込み	冠水トイレの汲取り等を含むし尿・浄化槽汚泥の投入がストップ 冠水便槽のし尿をバキューム車に積み置きの状態	郡山市から県中浄化センターへ投入を依頼 県中浄化センターマンホールへバキューム車積み置き分のみ投入以降、投入を断られる その後、再投入の依頼を郡山市に申し入れたが進展がなかった	仮設トイレが数百基設置されたため、その汲み取りや、冠水便槽の汲み取り作業に追われ浄化槽汚泥の汲み取りが遅れている状況 処理場の槽へ入れる量を、各社4台の投入制限。電気がつかないので投光器を使つての作業	福島市の処理場に移送を開始 追って、会津若松市、白河市、石川町、田村市の処理場へ合計108t/日を搬送 100tを汲み出して、作業してきた100tを槽にいれている状況 後に三春町の処理場へも搬送できるようになり、初めは50t搬送していたが100tに増やして受け入れてもらえるようになる	県中浄化センター（横塚ポンプ場）へ60t投入する許可が下りる 希釈して午前3時から投入する条件あり	県中浄化センター（横塚ポンプ場）への投入が開始されない 希釈水を通す管の工事が遅れ、投入ができない状況	県中浄化センター（横塚ポンプ場）へ投入開始 時間制限・投入量の制限あり	年明けから第1処理場を仮稼働開始（30〜40t/日） 1週間ごとに40tずつ増量して処理予定	第1処理場は7割程度処理ができています 第2処理場は2、4から仮稼働予定 1月末現在、1社あたり9台（し尿、浄化槽汚泥、農集）の投入台数制限 第1処理場が仮稼働開始したことで農集の汲み取りが開始	第1処理場はほぼ通常と通りに稼働	この週からは、仮稼働ではあるが第2処理場も従前と同じ稼働が出来る見込み

郡山市日大東北高校前
阿武隈川の氾濫で門扉の真ん中くらいの高さまで水がきている



郡山市の富久山クリーンセンター衛生処理センターへ向かう道路が冠水している様子

郡山市に対する支援



富久山クリーンセンター衛生処理センターの槽から汚泥を汲み上げしている様子

本会は、郡山市の所属員の災害対応を含めた業務に併せ、他地区の所属員による郡山市への支援を、11月25日から1月17までの間、計34日にわたり実施した。郡山市の処理施設「富久山クリーンセンター衛生処理センター」から、処理場への受け入れに協力いただいた市町の処理施設へ、し尿・浄化槽汚泥を移送する支援である。

この支援にあたっては、所属員の通常の業務を調整したうえ、日ごとの支援体制をくみ実施し、23社の所属員にご協力いただき、合計で294台、1159・8tの移送を行った（郡山の所属員が移送した分は含まれない）。

郡山市の所属員と、支援所属員による移送先は合わせて7市町に及んだ。

2. 6の三春町の処理場への移送を最後に、郡山市の会員による移送業務は終了し、それ以降は日常業務が出来るようになっていく。

多くの方々のご協力により、この台風災害による大変な事態を乗り越えることができましたことに感謝申し上げます。

▼受け入れ先市町村名(順不同)
福島市
会津若松市
白河市
いわき市
田村市
三春町
石川地方生活環境施設組合
ご協力いただきました。誠にありがとうございます。

▼代車整備費の支援
須賀川地方クリーン事業
協同組合

▼代車の確保の協力について
松宮株式会社
8t車 1台、4t車 2台、3t車 1台

令和元年東日本台風による担当地域の被害状況とその対応について

令和元年12月20日調べ

県北清掃協同組合

組合：倉庫床上浸水、薬剤等水没、駐車場浸水あり。
 和泉総業(有)：事務所・車庫床上浸水、社宅床上浸水、塩素剤・過去の点検表等水没
 月館町：広瀬川氾濫、近隣家屋工場等が床上浸水。公共施設等床上浸水(川の近く)、プロワ故障多数。老人福祉センター水没し利用不可
 霊山町：小国地区で単独浄化槽本体が流される、プロワ故障多数。浄化槽から放流ができない事例あり。小中学校プロワ水没、故障。
 梁川町：広瀬川氾濫により浄化槽浸水、床上浸水多数。浄化槽のマンホールの蓋流出、プロワ被害多数。農集土砂・異物の流入、機器類の故障。工場水没・プロワ故障、吸引ポンプ・汚水ポンプ故障。郵便局水没し利用不可。

川俣方部清掃組合

処理施設の取水ポンプへ土砂流入。
 川俣町：小学校10、12風雨により土砂及び雨水が校舎中庭に流入。中庭の浄化槽制御盤・プロワ・浄化槽水没。教育委員会の依頼で業者が制御盤・プロワ・放流ポンプを修理交換及びダンパー車での土砂撤去、ピット内に溜まった水を排水し水位を下げた。10、23、24の後の雨で小学校で使用した水により地下ピット内の水位が上昇した為、(株)川俣環境が依頼を受け処理場へ3.6m³×16台搬入。(災害復旧工事と判断し請求はしていない)
安達方部環境事業協同組合
 避難所に設置していた仮設トイレの汲取りは11、12に最終汲取り作業終了。
 二本松市：被災対応は水害地区を確定後、浄化槽の清掃をあくま浄化槽管理センターに依頼して実施。確定を待てない住民は二本松市生活環境課環境衛生係に連絡して、市が現場確認をして清掃を実施する。
 本宮市：汲取り便槽のみの被災対応だが、安達広域行政組合は二本松市と同様の対応を要請中。
 安達地区：101件の台風被害での浸水便槽の汲取りを行った。
 ・取り壊しをしていなかった100件の仮設住宅へ、被災した50世帯の方が居住を始めており残りの仮設住宅へも随時入居の様子。

須賀川地方クリーン事業協同組合

組合所属員5名の自宅床上浸水
 天栄村：農集水槽冠水、非常用エンジン・ポンプ故障。施設内外を洗浄し不良箇所を交換。
 須賀川市：一般住宅水害による冠水直後に巡回点検を実施、プロワ故障交換・修理を実施。蓋流出は取り付けを実施(株ひまわり)
 水害状況：前田川宿10軒、浜尾・和田20軒超え。滑川・下宿・古屋敷・仲宿・崩免・下江持・中江持・堤・栄町等30軒超え。館取町・小作田・浜尾・卸町・和田・一ノ関・西館50軒超え。阿武隈川の決壊により大東地区、浜尾地区冠水。釈迦堂川が氾濫し文化センター近郊と館取町が冠水、駅東側の中宿地区が冠水。鏡石町成田地区：阿武隈川の氾濫により広範囲で冠水。農業集落排水処理施設が浸水。
 ・滑川と阿武隈川の合流地点で一面が泥に覆われた。浸水便槽の汲み取りは水が引いたと同時に早急に対応したため苦情等は無し。

いわき市環境整備事業協同組合

夏井川7か所、好間川1か所、鮫川1か所が決壊。小川地区、赤井地区、平窪地区、好間地区、平幕の内地区、平鯨岡地区が浸水。平浄水場が浸水したため、4万5千戸が断水。県内浸水浄化槽3,595基のうちいわき市は2,567基で約72%を占めている(福島県浄化槽協会11月末調査)。下小川農集が浸水し連

南相馬市衛生組合

組合事務所の屋根が一部割れる。新井田川が氾濫したが居住者がほとんどいないため被害なし。上流の地域では床上浸水が数件。土砂崩れが発生して南相馬・川俣間、相馬・福島間の道路が一時不通。
アズメティ石川地方エコサービス協業組合1階倉庫床上浸水、備品等水没、過去の記録表等水没。
 河川氾濫による浸水多数。組合員の浄化センターが浸水。
(協業)福島県南環境衛生センター矢祭町：農集の中継ポンプ場が浸水、2、3日で復旧。
両沼地方清掃組合
 低い土地では数件の浸水便槽があったがすぐに対応。

転不能、10、20の7日間において、流入してくる汚水を6所属員で約400m³を近隣の処理施設へ転送する業務を支援。

中央環境整備(有)：1階事務所浸水、PC等事務用品一式、水質測定器一式、バキューム車3台、廃車、管理車4台、管理車4台、管理車3台、管理車3台、管理車2台、管理車1台

表郷：社川流域にある農集の一部が浸水。施設は稼働したため大きな被害ではなかった。

表郷：社川流域にある農集の一部が浸水。施設は稼働したため大きな被害ではなかった。



須賀川市浜尾 阿武隈川が決壊していた現場



いわき市平下平窪地内 家の1階の軒下まで水がきている



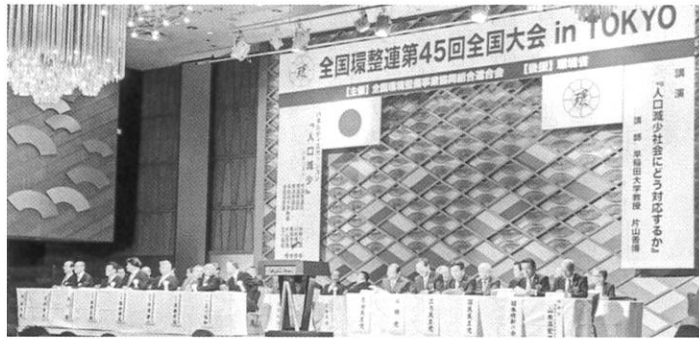
本宮市本宮館町 国道4号線から見た町内



伊達市梁川町 住宅街浸水

全国環境連全国大会in東京

令和元年10月15、16日、東京都のホテルニューオータニにおいて、全国環境連第45回全国大会が開催された。本会からは30名が参加（毎年50名程が参加しているが令和元年東日本台風の影響で急遽キャンセルがでた）。



第45回全国大会は「人口減少」は日本にどのような影響をもたらすのか、これに伴う原因を探り、問題や課題、その対策について議論し、人口減少社会の中で政治・行政・業界の成すべき使命を確認することを目的に開催されました。

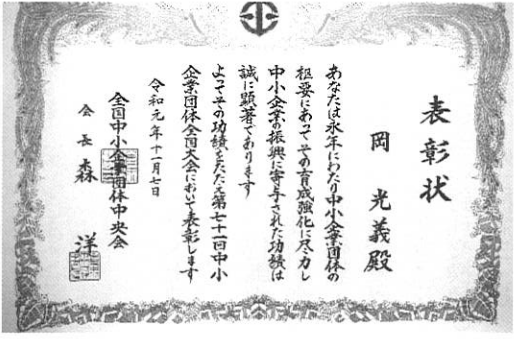
1日目は、優良役員・従業員表彰、講演・「人口減少にどう対応するか」パネルディスカッション・「人口減少」が開催され、多くの国会議員や政治評論家との討論がされた。

2日目は、各委員会・青年部の方針・本会議が開催され、大会スローガン、大会宣言等が行われた。

次回開催予定地は奈良県。（協業）福島県南環境衛生センター 大野和男 氏

中小企業団体 中央会表彰

令和元年11月7日、鹿児島市の「鹿児島アリーナ」において全国中小企業団体中央会全国大会が開催された。永年にわたる功績を称えられ岡会長が表彰を受けた。



熊本県環境整備事業協同組合来組

令和元年11月20日、熊本県環境整備事業協同組合の篠崎理事長と田所事務局長が、台風19号の被災のお見舞いに、いわき市の本会事務局を訪問していただきました。

平成28年4月14日に発生した熊本地震の際に、本会から義援金を送り、平成29年2月には、お見舞いを兼ねて熊本県を訪問し、被害のあった地域を視察させていたため、情報交換を重ねて親睦を深めて参りました。

義援金100万円の目録贈呈 ありがとうございます



熊環 田所事務局長 熊環 篠崎理事長 岡会長 櫛田 専務理事

福島県環境整備研修事業報告

電気設備講習会開催

本会は、令和元年度事業計画のひとつである「ポリテクセンターを活用した電気設備講習会」を令和元年10月18、19日の二日間、ポリテクセンター福島で、令和2年2月7、8日の二日間、テクノアカデミー郡山で開催した。福島会場19名、郡山会場8名の参加をいただいた。

前年度までの講習内容に加え、総合演習では、プロワと水中ポンプを分解して構造を確認し、単線接続図や展開接続図などの図面を使っての講習を受けた。

受講後のアンケートでは、電気系テスターなど仕事をすすめるうえで必要ではあったが、



今まで習得する機会がなかったのが今回受講出来て良かった。仕組みが分かって良かった。基礎を学べて良かった。2回目の受講で復習ができて良かった。などの感想をいただいた。

特任講師派遣事業

いわき市環境整備事業協同組合は、令和2年3月19日、いわき市環境整備会館において、岡城孝雄氏を講師とした特任講師派遣事業を開催予定。テーマ：大規模災害時の浄化槽への対応について

これまでの大規模災害を受け、今後同じような災害が発生した場合、浄化槽にどのような影響があるか、どのように対応することが望ましいかなどを講義していただく。

いわき市の組合員対象の講習会だが、県連の各組合にも照会し受講者を募った。（現在、新型コロナウイルスの影響により延期の可能性あり）

福島県環境整備協同組合連合会 創立60周年記念式典

開催日時：令和2年5月22日(金) 午後4時30分～

開催場所：郡山ビューホテルアネックス 4階「花勝見」の間(予定)

今後の予定	
4.	令和元年度 会計監査(予定開催地郡山市)
	令和2年度 第1回三役会議(予定開催地郡山市)
	令和2年度 第1回理事会(予定開催地郡山市)
24	全国環境連臨時理事会(東京都 如水会館)
5.	21 全国環境連第48回通常総会(東京都 如水会館)
	22 令和2年度通常総会・創立60周年記念式典(郡山ビューホテルアネックス)
6.	9 福島県中小企業団体中央会総会(福島市 ウエディングエルティ)
	12 福島県浄化槽協会 通常総会(福島市 ウエディングエルティ)
7.	2 全国環境連北海道・東日本地区協議会総会(秋田県)